

かまくらじっき

## #14 鎌倉実記

作者：洛下隠士（らっか・いんし 1669-1724）

刊行：享保2年（1717）



### 解題

#### ■ 内容

『鎌倉実記』は17巻17冊の歴史に取材した実録物である。中村幸彦は「軍記」と分類している（『日本古典文学大辞典』）が、堀竹忠晃は「物語と断ずるには、評論あり、歴史記録ありと、いわば雑然と様々な要素が入り混んでいて、「軍記」と呼称できない性格」「雑史」と分類したほうが『鎌倉実記』の性格を語り得ている」としている（『鎌倉実記』の性格-源平の実録と虚構）。



[K24. 4/17]

『鎌倉実記』の「序」には、源平の盛衰の記録には偽りや誤りが多く真実を伝えていないので、諸家に秘蔵されている信頼に足る歴史史料を入手し、真実の記録を心がけた、とある。しかし一方で、引用されている文献には現在まったく行方つかめていない未詳のものも多いと堀竹忠晃は指摘している。また本書は、『金史別本』という史料には、義経が蝦夷を平定したあと中国大陆に渡ったと記されている、と紹介したことで知られているが、現在はこの史料は偽書とされている。

『鎌倉実記』には京都唐本屋八郎兵衛本と、同じく京都の茨木多左衛門本の2系統があるとされている（堀竹忠晃）。当館所蔵本は、17巻10冊（構成は1巻、2-3巻、4-5巻、6巻、7-8巻、9-10巻、11-12巻、13巻、14-15巻、16-17巻）である。巻頭には「平安書房 豫章堂壽梓」、巻末の奥付には「享保丁酉年孟夏朔旦 京師 唐本屋八郎兵衛」とある。

#### ■ 作者

作者は洛下隠士。東條琴臺（儒者 1795-1878）の編纂した徳川時代の著者別

著述目録『近代著述目録後編』では医家の加藤謙斎（かとう・けんさい）のこととしている。本名は藤原忠実。字は衛愚、号は洛下隠士、烏巢道人（うそうどうじん）、謙斎等。医学、儒学、詩文を学び、若年には俳諧を嗜んだ。京都に出て医を業とし、門人多数。他に『病家示訓』など、医学に関する著作がある。



## 本文を読む

< 版本 >

『鎌倉実記』 1-10 洛下隠士（加藤謙斎）著 豫章堂 1717

[K24. 4/17/1] - [K24. 4/17/10]



## 参考文献

『国書解題〔上巻〕』再版 佐村八郎著 臨川書店 1971 [K02/116/1]

菊池勇夫「義経「蝦夷征伐」物語の生誕と機能：義経入夷伝説批判」

（『史苑』42 立教大学 1982）

※当館未所蔵 立教大学学術ポータルで閲覧可能

大阪府立中之島図書館「義経＝ジンギスカン伝説を追う」（第 19 回大阪資料・古典籍室 1 小展示 平成 10 年 5 月 23 日～6 月 28 日）

※同館 HP で閲覧可能

堀竹忠晃「『鎌倉実記』の性格―源平の実録と虚構」（『立命館文學』583 立命館 2004）

※当館未所蔵 立命館大学 HP > 立命館人文学会 > 立命館文學にて閲覧可能